

こすもす便り

第2号 (2016年12月)

◇保護者の皆さまへのお知らせ紙です◇

★最近のちょっとした出来事から

子どもたちが何かを学ぶとき身体感覚を伴って学習するかどうか大切なポイントになります。社会性は、単なる情報習得だけでは十分ではなく、人間関係に関連するたくさんの要素である「責任感」「思いやり」「自己主張」「感情抑制」「気配り」など社会性として一括りには出来ない無数の態度や能力は、集団の遊びの中で、人や自然、出来事などの相互作用で身についていくものです。

知識はその習得過程に伴う感動によって、単なる知識になるか生活する力として身につくのか大きく変わってきます。

先日の子供達の遊びの中での一コマ。3人の子供達が新聞紙を丸めて作った小さなボールで玉入れを始めました。そんなときAくんが「Bくんは欲張り」とぼつんと言うのです。見るとBくんは両手いっぱいボールを抱えています。「じゃあAくんも欲張ってみようよ」とたくさんのボールを拾い集めました。すると両手いっぱいになった球を投げにくそうにかごに向かって投げていましたが、その後はもう両手一杯に玉を持つことはせず、他児と競いながらボールを拾っては投げ捨っては投げ、賑やかな笑い声が時間を忘れるほど続きました。Bくんも同じでした。

一つでも多く持ちたいのはみんな同じです。Aくんは自分がボールをたくさん持ってみただけれど、Bくんが欲張りではないことが何となく理解できました。

独り占めになるほど拾い集めてもいいのです。遊んでいる最中に分け合う方が盛り上がり楽しんでるものです。そして、「分け合ったから楽しかったね～」という共感の言葉と結びついたときに心で理解できるのではないのでしょうか。

「分けてあげて」「独り占めしないで」と言葉だけで注意するのでは「言われたことを守る」という指導になってしまい、本物の理解に繋がりにくいのです。

「お互い様」は忠告という形はとらず、単純な「欲張り」という言葉を、悪のイメージで頭で覚えさせるのではなく「みんなで作る方が楽しい」というわき出てくる気持ちの経験の方がずっと前向きです。

社会性という無数の態度や能力は、集団の遊びの中でのせめぎ合いの中で、場面ごとの折り合い方を自然に学んでいけるのです。私たち職員の役割は、子ども達の示すサインを感じ取ることに最大限の注意と配慮を施し、必要なときに必要なヒントで、子ども達の持つ潜在能力を引き出すことです。

HOW-TOで覚えると、困るのは子ども達自身です。型どおりの答えを当てはめる事が出来るほど日常生活の出来事は単純ではありません。子ども達が困ったときに人に助けを求める方法をたくさん経験しておくことの方が現実的です。